

## 気候影響・利用研究会第41回研究会

テーマ：日本の気候－気候気象の災害・影響・利用を探る－

日時：2004年11月24日（水）、13時～17時

会場：日本大学文理学部100年記念館

主催：気候影響・利用研究会

主旨：近日刊行の「日本の気候」を執筆した方や、関連研究分野の研究者の方に、最新の研究情報について話題提供していただき、各方面からのご意見を交えながら新しい視点で日本の気候を考える。

参加費：無料、ただし予稿集は¥500～¥1000で販売（25日分とセット）。

プログラム：

13:00 開会挨拶

13:10-13:40 特別講演「熱帯域の大気海洋変動と日本の異常気象」  
川村隆一（富山大学）

13:40-14:05 「北日本における夏の周期変動は何によってもたらされるのか」  
菅野洋光（東北農業研究センター）

14:05-14:30 「日本の気象災害」  
小柴厚（銚子地方気象台）

14:30-14:55 「植物季節に及ぼす都市の温暖化の影響」  
松本太（立正大学）

休憩

15:10-15:35 「過去の都市気候研究から対策の可能性を探る」  
福岡義隆（立正大学）

15:35-16:00 「温度関連の健康リスクの構造－地球温暖化におけるリスクの枠組み、  
検出、認知、統合の現状－」  
佐々木昭彦（福島県庁）

16:00-16:25 「風土資源を活用する地域農産物生産管理システムの提案と  
それを実現する技術について」  
大原源二（中央農業総合研究センター）

16:25-16:50 「第四紀の地球環境変動（仮題）」  
遠藤邦彦（日本大学）

気候影響・利用研究会  
20周年記念シンポジウム  
地球温暖化の影響評価に関する研究フロンティア

日 時：2004年11月25日（木）、10時～17時

会 場：日本大学文理学部100周年記念館

主 催：気候影響・利用研究会、温暖化イニシャティブ影響・リスクプログラム会合

参加費：無料、ただし予稿集は¥500～¥1000で販売（24日分とセット）。

プログラム：

10:00-10:05 開催挨拶

10:05-10:25 1 影響・利用研究の新しい視点  
「気候影響・利用研究の歴史と将来」  
吉野正敏（気候影響・利用研究会名誉会員、筑波大学名誉教授）

10:25-10:45 2 温暖化影響研究の国際的な背景  
三村信男（茨城大学教授）

10:45-11:05 3 対策面から影響研究への提言  
「長期気候政策の鍵を握る影響・適応研究」  
西岡秀三（国立環境研究所理事）

4 今何が問題か  
（1）生態系への影響

11:05-11:35 21世紀の炭素管理に向けたアジア陸域生態系の総合的炭素収支研究  
及川武久（筑波大学教授）

11:35-12:05 地球温暖化は海洋生態系にどのような影響を及ぼすか  
川崎 健（気候影響・利用研究会名誉会員、東北大学名誉教授）

（昼 食：12時05分～13時15分）

（2）農林水産業への影響と食糧安全保障

13:15-13:45 Impacts of global climate change on coastal fisheries  
production in Taiwan

蘇 偉成（台湾行政院農業委員会水産試験所・所長）

13:45-14:15 農業への影響評価に際した論点の整理  
林 陽生（気候影響・利用研究会会長、筑波大学）

14:15-14:45 温暖化の森林分布への影響予測  
田中信行（森林総合研究所）

14:45-15:15 世界の食料問題における温暖化影響の相対的重要性  
小山 修（国際農林水産業研究センター）

（休 憩：15時15分～15時30分）

（3）人間生活への影響

15:30-16:00 地球温暖化と異常気象－人間の健康や生活への影響－  
原沢英夫（国立環境研究所）

16:00-16:30 人間も含む生態系に及ぼす温暖化の影響と対策  
福岡義隆（立正大学教授）

16:30-17:00 5 総合討論 「脆弱性評価と適応へ向けて」  
座長：原沢英夫（国立環境研究所）

17:30-19:00 6 懇親会